

# — 會 務 報 告 —

## 第一回學術講演會記事

康德8年11月25日午後1時より新京市日滿軍人會館に於て第1回學術講演會を下記の通り開催せり。

楕圓型トンネル周圍に於ける應力状態に就て  
哈爾濱工業大學教授

正會員 荒井利一郎君  
工學士

楕圓形トンネル附近に生ずべき應力に就て平面歪み彈性問題としての一解法を述べたい。然る所全く同じ問題に關しては既に杉原氏の解もあるので之と著者が得た結果との間に存在する異同に關しても言及したい。

「ソイルセメント」工法に依る舗装工事に就て

交通部航空司技佐

正會員 羽中田參次君  
工學士

現下時局に於ける舗装資材の極度の節約に勞力の制限が強く要請されてゐる。「ソイルセメント」工法による舗装はこの點を幾分充足し得るものであると云ふ事が出来る。「ソイルセメント」工法による舗装は道路部門に於て試験研究中のものであるが滿州に於ては之を飛行場の滑走路舗装に實施した。その結果は略良好であると認められた。

滿洲國河川に對する新流速公式

哈爾濱工業大學助教授

准會員 永井莊七郎君  
工學士

滿洲國內河川の特異性から從來のバザングツターマンニング等の實驗流速公式は一貫に國內

河川には不適當であつた。著者は155個の實驗値と500餘個の實測値より移動床河川に對して平均流速公式を確立した。之を江湖に間はんとするものである。

營口港に於ける河口門洲に就て

交通部營口土木工程處長

正會員 太田長四郎君  
工學士

營口港は港灣として優位置に位するに拘らず2.3の惡條件に煩せられ該港の發展を阻害せらる、ものあり河口門洲の存在はその素因の最も大なるものとす。本論はこの門洲に對する導流提築造による影響流量及び流泥量との關係遼河改修計畫との關係性につき並に河口改良對策の大略意見を述べんとするものなり。

滿洲國に於ける道路交通經濟と道路網計畫

交通部技正

正會員 瀬戸政章君  
工學士

滿洲國の道路現状と自動車交通運輸並に荷馬車運送の實際並に之等が道路の粗惡に基因する運送費及輸送能力の損失を指摘し、道路網の整備と路面改良に依つて得らる。國家的利得を論述す。

自動車専用道路と並通道路の經濟的比較を試み更に一例を哈大間自動車専用道路に取り其の運送力の増大輸送費の節約に就き意見を述べ次で道路財政對策に論及す。

尙滿洲國道路網の構成に就ての私見を開陳し、各級道路の理想密度を決定す。最後に近代交通機關としての道路交通が如何に計畫さる可

きか、又滿洲に於ては如何に進めらるべきかを結論す。

ポルトランドセメントに依る路床土安定法の研究

第一報 土壤種別と安定強度との關係に就て

大陸科學院研究官

正會員 前田 稔君  
農學士

各種事情から推して我が國に於ては路床土安定法の研究は急務の様に思考される。路床土の安定法と言へば種々の方法が擧げらる、次第であるが、此等の内で最も我國の實狀に即した方法と言へば本題に示す所のセメント添加法によるもの、様である或一つの工法を眞に危惧する所なく安心して施工し得る爲には之が工法の實態を把握する事である事は疑もない次第であつて、之が爲には各種の實驗を必要とするものである而して現場施工に最も關係の深い事項を明にする事が第一に要求される事は當然である本報告に於てはセメント添加量と強度との關係及養生日數と強度との關係を各土壤別に求め而して試驗結果に對して考察を行ひ各土壤別に常溫施行に於ける經濟的なるセメント使用量を明

にした。

水上軌道に關する研究

滿洲鐵道總局

正會員 久保義光君  
工學士

梗概略

堰堤用特殊セメントに就て

水力電氣建設局技佐

副會員 大野祐武君  
工學士

梗概略

會合其他記事

第9回常議員會

日時 康徳8年12月20日

場所 滿鐵新京支社會議室

協議事項

1. 康徳8年度會計狀況報告
2. 康徳9年度豫算案審議
3. 其他

新入會員

准會員、沖津俊直

土木學會々員數 (康徳8年12月15日現在)

特別會員 正會員 准會員 學生會員 副會員 計

41	550	583	163	1,345	2,682
----	-----	-----	-----	-------	-------

正會員 大濱金助 准會員 中村謙介 宮澤徳司

3君の訃報に接す本會は恭しく哀悼の意を表す。